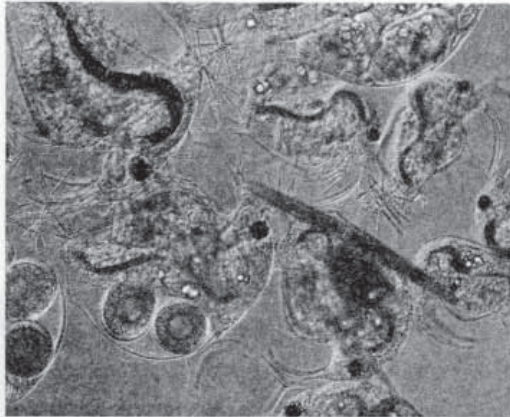
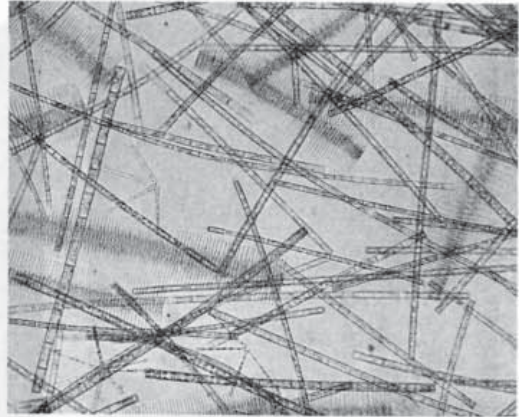


# 寺島浩一氏撮影：『相模湖・津久井湖淡水プランクトン写真展』

2月1日(水) ~ 26日(日)



春のゾウミジンコの群集 (津久井湖)



秋の珪藻群集 (相模湖)

<写真は「自然と文化17号」より転載>

## プランクトンとは？

■皆さんご存知のように、水の中も様々な動物植物が生活しています。その生活の仕方は、自分で泳ぐことができる動物、水底に潜って生活する動物、水底に生えている植物などグループによって変化にとんでいます。その中で、自分で泳ぐことができないか、その力が弱く、水に漂って生活しているような動物植物をまとめてプランクトンと呼んでいます。ケイ藻類・緑藻類・ワムシ類・ミジンコ類などプランクトンには多くのグループの動物植物が含まれています。

■プランクトンは水に浮かんで暮らしているので、流れのある川にはほとんど見られず、池や湖に多くの種類が見られます。また、海には種類も数も莫大な数のプランクトンが生活しています。これらのプランクトンは、魚などの動物の餌になり、水の中の生態系を支える重要な役目をもった生物でもあります。

■川にはプランクトンは生活できないと書きましたが、水がせき止められて、ダムができると、そこには多くのプランクトンが見られるようになります。相模川水系でも、相模湖、

津久井湖などのダムにプランクトンが見られ、夏に発生して話題になるアオコもプランクトンの1種です。プランクトンを調べるには、ボートや舟を利用し、プランクトンネットという網で水中をすくって集めます。この網は水中を引いていくと、底にプランクトンなどが集められるようなくみになっているのです。

## 寺島浩一氏の紹介

■鎌倉市在住の寺島浩一氏は長年にわたって、相模湖・津久井湖のプランクトンを調査されており、その成果の一部は博物館発行の「自然と文化17号」にレポートとして報告されています。今回は、氏が顕微鏡で撮影されたプランクトンの写真をお借りして皆さんに紹介することになりました。

■展示した種類は、おもに相模湖・津久井湖で採集されたもので、ミクロの世界の美しさを紹介するために、展示を行いました。ふだん何気なく見ているダムの湖面の下にもこうした多様な動物植物の世界が広がっていることを知って頂きたいと思います。